

平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センターの事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

◆第2回多職種連携研修会を開催しました

2/12（木）に開催し、専門職等32名、民生委員等17名の方々が参加されました。

今回は「一緒にかんがえてみませんか～住み慣れた地域で暮らし続けるためにできること～」というテーマで、民生委員の方も関わった「ある人生会議の一場面」を多職種連携研修実行委員の方々が演者となって、ロールプレイング*を行いました。本人に関わる支援者（家族、民生委員、かかりつけ医、ケアマネジャー、地域包括支援センター、薬剤師、看護師等）が、“本人の思い”や“本人を心配に思う地域の支援者の気持ち”を聴き、みんなで共有し、本人の思いを実現するためにできる支援について考え、明日からの支援につなげるという内容でした。なかなかACP（人生会議）について、イメージがわからないという方にも、少し理解を深めていただくことができたのではないかと思います。実際の現場では、ロールプレイのように意見がまとまらないことの方が多いかもしれませんが、この事例をモデルとして、本人の思いを家族も含めた支援者みんなで共有し、記録し、思いが変わればその都度またみんなで共有する、この積み重ねが「最期まで本人が望む生活が続けることができる」ということにつながっていくのではないかと思います。*現実の場面を想定し、複数の人がそれぞれの役割を演じること



グループワークでは、民生委員や福祉協力員の方々と専門職と一緒に、自分

たちができる支援について意見交換を行いました。若松区の支援者が一堂に会して、話をする機会はあまり多くないと思いますが、支援者同士の顔の見える関係は、若松区の地域包括ケアシステムの構築には欠かせない要素となります。来年度も「オール若松」となって、若松区の高齢者支援が盤石となる関係づくりのための研修会を企画してまいります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



◆若松区内の「介護施設における医療提供対応状況に関するアンケート調査」を実施しました

私たちの業務の一つに相談業務があります。専門職の方々から「〇〇（医療処置）が対応可能な施設を紹介してほしい」、「感染症の方の受け入れが可能な施設はありますか」などの相談を受けることがあります。そのため、介護施設の方々に対応可能な医療状況について、年に1回アンケート調査を実施し、関係者の皆様にご協力をいただいています。上記のような内容の相談を受けた場合に、ご協力いただいたアンケート調査の中から適切な施設の情報提供を迅速に行うことができ、大変役立っています。状況は日々変化していくものなので、年に1度、情報更新のためのアンケート調査を継続実施しています。介護施設の皆さまにはお手数をお掛けしますが、今後ともご理解ご協力の程、宜しくお願いします。

また、介護施設以外にも医療機関、訪問看護ステーションにおきましても、対応可能な医療処置等につきましてアンケート調査を実施しています。お困りのことがございましたら、当センターまでご相談ください。

